



# JACP

Japanese Association for Community Pharmacy

JACP 10年間のあゆみ

2013年11月22日~2024年6月30日



一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会

# 地域社会の拠点となり人々にとっての拠り所となる

## いきつけ薬局を目指して!



### ごあいさつ

2013年に設立しました日本コミュニティファーマシー協会 (JACP) ですが、10年目を迎えます。

前回「JACP7年間のあゆみ」を作成しましたが、その間にはコロナ禍もあり、リアルでの研修ができなくなり、ドイツ薬学視察旅行にも行けなくなりました。しかしながらそれらの課題も一つ一つ解決し、WEB研修システムを構築したり、ネット決済が利用できるようにしたり、あるいは会員の皆様はサブスクリプションで研究会に参加できるなど、ニューノーマル(新しい生活様式)に切り替えをしてきました。

さらにホームページ上に動画を活用した会員支援ページを作成し、ドイツ薬学視察旅行も2023年から再開しています。

ニューノーマルへと舵を切り替えましたが、理念そのものは全く変わっていません。ここに掲載しているように、地域社会の拠点となり人々にとっての拠り所となるいきつけ薬局の創設を目指しています。このいきつけ薬局のコンピテンシーモデルは設立当初に策定したものです。

このような薬局を作る手法として、Think globally Act locallyを基本とし、世界の薬局や情勢を見て、日本の薬局を考える。そのためのCP研究会やコミュニティファーマシーフォーラムを継続して開催しています。

倫理審査委員会を作り、会員の調査研究も進め、アウトカムを出すことにも挑戦しています。その間、日本の薬局も変革が進んでいます。健康サポート薬局や地域連携薬局など、新たな形が出来てきています。

今後はDX(デジタルに強い)薬剤師も必要になります。世の中の変革についていきながら、基本は変わらずの姿勢で協会の運営を行なっていきたいと考えています。みなさまのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本コミュニティファーマシー協会代表理事  
吉岡 ゆうこ



### “いきつけ薬局”のコンピテンシーモデル

- ① **通りに面したショーウィンドウ**  
薬局から街の人々へ情報を発信するための重要なスペース。目を惹きつけるディスプレイで、季節や気候に応じた健康や薬の情報を伝えます。
- ② **夜間・休日対応窓口**  
夜間や休日は人の頭が通らない大きさの窓口で対応します。
- ③ **体組成もしくは体重測定コーナー**  
気軽に体組成や体重を測ってもらいます。
- ④ **各種測定コーナー**  
血圧、骨密度、肺機能からお肌のキメや水分量チェックなど、体と健康のチェックのためにいつでも気軽に立ち寄ってもらうコーナーです。
- ⑤ **OTC医薬品(市販薬)の対面相談販売**  
薬を使用する人の顔や様子を見ながら、症状や状況を直接聞き、薬剤師が適切なセルフメディケーションを提案します。
- ⑥ **薬局推奨の化粧品や食品**  
美容と健康に関連するものとして、栄養機能食品、低カロリー食、介護食、低栄養改善食、サプリメント、減塩・低脂肪調味料など、薬局ならではの商品を取り揃え、栄養相談も行います。
- ⑦ **相談カウンター**  
食事、運動、睡眠、排泄、身体衛生(入浴・清潔)、美容や健康、介護、薬のことを、専門的な知識と経験を持つ薬剤師が家族のように相談に応じます。
- ⑧ **談話・閲覧スペース**  
お茶を飲んで談笑したり、医療・介護・健康関連情報が閲覧できるスペースです。
- ⑨ **プライベートルーム(個別相談室)**  
他人に聞かれたくない内容も、周囲を気にせずゆっくりと薬剤師に相談できます。
- ⑩ **調剤室**
- ⑪ **無菌調剤室**
- ⑫ **無菌調剤室前室**
- ⑬ **薬の受け渡し口**
- ⑭ **夜間待機室**
- ⑮ **医薬品等搬入口**  
注文した薬が搬入されたり、患者宅に届ける薬を運び出すための出入り口です。
- ⑯ **スタッフルーム&医薬品情報(DI)室**  
十分な広さが確保されたスタッフルーム。スタッフの休憩だけでなく、研修会やカンファレンス、医薬品情報関連書籍の閲覧などに活用します。
- ⑰ **在宅(居宅)療養支援**  
地域住民の在宅療養支援に他のサービス事業者と連携して関わります。

### 設立趣旨

一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会 (Japanese Association for Community Pharmacy = JACP) は、本来の薬剤師の職能と薬局の機能に与えられた使命の下に社会的役割と責任を果たすために、人々の生活圏を舞台とした健全な地域社会づくりに貢献するコミュニティファーマシーを創造することを目的として2013年11月22日設立。

地域の人々が心身ともに健康で「暮し甲斐」ある地域社会創造の拠点となり、地域住民にとっての拠り所となる「いきつけ薬局」としてのコミュニティファーマシーの創造を行う。

そのアプローチの手法としては、長い歴史の中で街の薬局として厳然として機能してきたドイツの薬局の業態に範をとり、その長所を日本の薬局に取り入れ、具体的なアクションプランとして「日独融合型薬局」という新しい業態提案を軸に具体的支援策を提供していく。

これにあたり、最も重要な生活者および患者の立場と意思を理解した施策を講じることで、薬剤師と薬局の役割と責任を明確に表明し、表現し、活動を実行できる薬剤師が運営するコミュニティファーマシーを増やすことを目指す。

### 活動内容

1. 地域の人々が心身ともに健康で「暮し甲斐」ある地域社会創造の拠点となり、地域住民にとっての拠り所となる「いきつけ薬局」としてのコミュニティファーマシーの創造と啓発活動
2. コミュニティファーマシーとしての健全経営を目的とした店舗づくり・販売促進・情報発信等に関する支援活動およびコンサルティング
3. 地域の保健、医療、公衆衛生に貢献する薬剤師の行動指針の構築ならびに育成活動
4. コミュニティファーマシーとして地域包括ケアにおける他職種との連携に関する立ち位置の明確化および特徴ある役割と機能の整備、構築のための支援活動
5. 薬学教育発展に寄与するための特別講座など具体的プランの提案
6. コミュニティファーマシーの業務に携わる薬剤師(コミュニティファーマシスト)のマインド喚起とモチベーション醸成を目的とした各種視察ツアーおよび研修
7. 保健、医療、公衆衛生等の薬剤師および薬局が関わる各種調査・分析・データベースの構築など
8. 薬局の専門領域における学術研究
9. 医療・保健・福祉分野だけではなく社会科学的見地からの地域における薬局の在り方に関する理論構築
10. その他

JACPのロゴマークの蛇は、ギリシア神話の医薬の神アスクレピオスに多くの知恵を授けた聖蛇をモチーフにしています。杯は、アスクレピオスの娘であるヒギエイアの杯です。それらを十字と組み合わせ、杯から餌を食べている姿をロゴマークとしました。このマークと団体名(日本コミュニティファーマシー協会)、略称(JACP)は登録商標として登録が完了しています。デザインは異なりますが、このヒギエイアの杯に絡まる聖蛇の姿は、ドイツ全土の薬局(Apotheke)のマークにも用いられています。



Think globally

Act locally

JACPでは、日本の医療制度や薬局だけに目を向けるのではなく、  
欧米の薬局や医療制度にも注目し、グローバルな視点で日本の薬局のことを考えています。



### ドイツの薬局に学ぶ

ドイツ薬学視察旅行を開催し、現地の薬局、病院薬局、  
大学薬学部、オーガニック医薬品会社とその農園、ドイツ薬事博物館等  
多様な視察先から多くのことを学んでいます。



①街にだけ込む薬局の外観 ②③ディスプレイで情報発信  
④商品豊富な店舗 ⑤相談応需のための個室 ⑥最新の  
デジタルウォール ⑦ピッキングマシン導入で機械化が  
進む ⑧ロッテンブルクの薬局 ⑨ドイツ薬局の日  
⑩試験検査室 ⑪24時間365日輪番制で開いている夜間  
薬局の様子 ⑫夜間薬局用の小窓

#### ドイツ薬学視察旅行一覧

- 第1回 ドイツ薬学視察旅行2014・初夏
- 第2回 ドイツ薬学視察旅行2014・冬
- 第3回 ドイツ薬学視察旅行2015・初夏
- 第4回 ドイツ薬学視察旅行2015・秋
- 第5回 ドイツ薬学視察旅行2016・初夏
- 第6回 ドイツ薬学視察旅行2016・秋
- 第7回 ドイツ薬学視察旅行2017・初夏
- 第8回 ドイツ薬学視察旅行2018・初夏
- 第9回 ドイツ薬学視察旅行2019・初夏
- 第10回 ドイツ薬学視察旅行2023・秋

### FIP国際会議で学ぶ



FIP(国際薬剤師・薬学連合)の国際会議に毎年参加しています。  
FIPの国際会議は毎年開催していて、これまでに  
タイ、ドイツ、アルゼンチン、韓国、イギリス、豪州等を訪問しました。  
世界の薬剤師が一堂に会しての学会であり、ポスター発表の場もあります。  
現地の薬局への視察ツアーも行なっています。



### カナダに学ぶ

カナダでは薬剤師がケアに介入することで  
患者のアウトカムが上がることを実証しています。  
その第一人者が Epidemiology Coordinating and  
Research (EPICORE) Centre の所長 Ross Tsuyuki 教授であり、  
その他アルバータ州立大学薬学部の教授らより  
薬剤師の職能拡大についての教をを請うています。



カナダのEPICOREセンターに在籍していた  
岡田浩氏はアウトカム研究の情報を  
"ApoBittel"かわら版"で発信しています



①アルバータ州立大学薬学部教授 Ross Tsuyuki氏  
②同大学薬学部教授・副学長 Christine Hughes氏  
③同大学薬学部准教授 Terri Schindela氏  
④同大学薬学部 Dr. Tatiana Makhinova氏  
⑤JACP理事の山村重雄氏によるカナダ薬剤師会雑誌紹介

Think globally

Act locally

薬剤師のモチベーションアップのために、フォーラム、ワークショップ、CP研究会、CP学術講演会、関西CPセミナー、健康サポート薬局経営塾、国内視察ツアーなどを開催しています。

### コミュニティファーマシーフォーラム、コミュニティファーマシーワークショップ、ワールドフォーラム in コミュニティファーマシー

年に1回、コミュニティファーマシーフォーラムを、またコミュニティファーマシーワークショップ、ワールドフォーラム in コミュニティファーマシーを開催し、時代の先ゆく話を学んでいます。

- 2014年5月25日 第1回コミュニティファーマシーフォーラム(東京四谷)「地域とともに歩む薬局〜ドイツと日本における実践〜」
- 2015年5月24日 第2回コミュニティファーマシーフォーラム(東京四谷)「地域包括ケアに参画するコミュニティファーマシー」
- 2016年7月24日 第3回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「発信! 発進! コミュニティファーマシー」
- 2016年2月11日 第1回コミュニティファーマシーワークショップ(東京麹町)「人と人をつなぐコミュニティデザイン」
- 2017年7月23日 第4回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「もっとその先へ! コミュニティファーマシー」
- 2018年7月22日 第5回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「明治維新150年、今薬局変革の時〜地域とつながる&AIと夢見る未来へ〜」
- 2019年7月21日 第6回コミュニティファーマシーフォーラム(東京秋葉原)「地域と薬局〜地域フォーミュラーが変える病院・薬局のシームレスな連携」
- 2020年7月12日 第7回コミュニティファーマシーフォーラム(WEB)「#コロナに負けるな!」
- 2021年8月29日 第8回コミュニティファーマシーフォーラム(WEB/東京秋葉原)「薬剤師と栄養士がタッグを組む新たな薬局業界の未来〜ヘルスケア・デザイン〜」
- 2022年1月15日 第1回ワールドフォーラム in コミュニティファーマシー(WEB)「ドイツではOTC医薬品である「緊急避妊薬」薬局における相談対応の重要ポイント」
- 2022年7月24日 第9回コミュニティファーマシーフォーラム(WEB/東京秋葉原)「グレート・リセット〜DXで可能となる多職種連携&未来の薬局〜」
- 2023年7月23日 第10回コミュニティファーマシーフォーラム(WEB/東京秋葉原)「未来薬局×ロボット調剤」
- 2023年11月23日 第2回ワールドフォーラム in コミュニティファーマシー(WEB)「withコロナ時代におけるドイツ・カナダの薬局の取り組み」



2015年 ドイツ薬事博物館長・E.フーヴァ氏



2016年 厚生労働省・田宮憲一氏



2018年 経済産業省・江崎禎英氏



2023年 厚生労働省・杉山朋宏氏



現在のフォーラム会場〜秋葉原コンベンションホール



2016年ワークショップにて、スモールグループに分かれてテーブルワークを実践



2016年ワークショップにて山崎亮氏



2023年 神戸市立医療センター・橋田亨氏



2022年フォーラム会場〜JACPポスター発表



2023年フォーラム会場〜JACPポスター発表

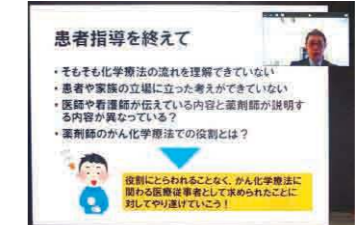
### CP研究会、CP学術講演会等のセミナー

「患者のための薬局ビジョン」で掲げられているかかりつけ薬剤師・薬局機能、健康サポート機能、高度薬学管理機能習得のための知識、技術、態度、コンピテンシーを学んでいます。

- |                         |                        |                        |
|-------------------------|------------------------|------------------------|
| 2015年第1期 CP研究会 (年6回開催)  | 2018年第4期 CP研究会 (年4回開催) | 2023年第9期 CP研究会 (年6回開催) |
| 2015年2月第1回CP学術講演会「糖尿病」  | 2019年第5期 CP研究会 (年4回開催) | 2016年 関西CPセミナー (年1回開催) |
| 2015年9月第2回CP学術講演会「皮膚疾患」 | 2020年第6期 CP研究会 (年4回開催) | 2017年 関西CPセミナー (年3回開催) |
| 2016年第2期 CP研究会 (年5回開催)  | 2021年第7期 CP研究会 (年8回開催) | 2018年 関西CPセミナー (年3回開催) |
| 2017年第3期 CP研究会 (年5回開催)  | 2022年第8期 CP研究会 (年7回開催) | 2019年 関西CPセミナー (年3回開催) |



食育SATシステム研修



CP研究会の配信



CP研究会の配信



検体測定体験研修



簡易懸濁法研修



OTC医薬品トリアージ研修

### コミュニティファーマシーの日とコミュニティファーマシーフェスタ

ドイツの「薬局の日」に学び、5月5日を「コミュニティファーマシーの日」と記念日協会に登録しました。「コミュニティファーマシーの日」と「コミュニティファーマシーフェスタ」等JACP加盟の薬局では地域の人たちを巻きこんだイベントを開催しています。



コミュニティファーマシーの日のポスター



子ども薬剤師体験



ベビーフェスタ



薬草園で薬草摘み



家庭のくすり箱セミナー



健康セミナーで相談応需



ハーブで作った食品の試食



コミュニティファーマシーフェスタのポスター



医師によるヘモグロビンの測定



用意した(葛蒲湯の)葛蒲を配る



劇団員による寸劇イベント

Support

Act locally

Think globally

JACP会員薬局がいきつけ薬局になれるように様々な支援を行なっています。

## JACPの薬局支援グッズ&会報誌「アポビッテ！」



お薬手帳  
my healthrecord



貼付ステッカー

JACPではこれまで提唱してきた「いきつけ薬局」の「かかりつけ薬剤師」を応援するためのグッズを販売しています。かかりつけ患者用お薬手帳「my health record」と、薬局の見せる化として店舗扉、ガラス面等に貼る「貼付ステッカー」です。



会報誌ApoBitte!

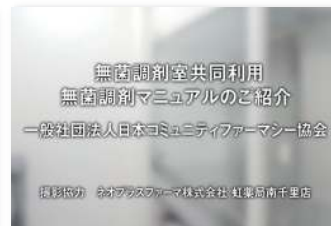
JACP会員向け会報誌「ApoBitte!」を発行。これを通して、コミュニティファーマシーとしての健全経営を目的とした店舗づくり、販売促進、情報発信等に関する支援を行っています。

## ホームページで 展開している JACPの配信動画

JACPのホームページでは、地域連携薬局で必要な無菌調剤室共同利用のための無菌調剤マニュアル動画、緊急避妊薬に関する講演動画2本、がんと働く応援団と連携したがん防災の講演動画、薬局薬剤師に学会発表を推進していくための方法を解説した講座動画、コミュニティファーマシーフェスタの動画などを公開しています。



がん防災マニュアル



無菌調剤マニュアルのご紹介



薬局薬剤師のための学会発表の方法



薬局薬剤師のための緊急避妊薬調剤入門



ドイツでの緊急避妊薬



コミュニティファーマシーフェスタ

### 倫理審査委員会 の設置

薬局・薬剤師の研究分野における、人を対象とする研究(患者アンケート等を含む)に該当する臨床・疫学研究について、その倫理審査が求められるようになり、当協会でも2019年5月にJACP内に倫理審査委員会を設置しました。

そして2019年11月に健康サポート薬局の有用性の評価に関するJACP共同研究を行い、その結果を2020年10月第53回日本薬剤師会学術大会にて発表しました。

### シニアファーマシスト 倶楽部

日本における医薬分業も50年を経ました。その激動の時代に薬剤師として生き抜いたシニアファーマシスト達に、高遠の薬剤師に文書として残したいことを自由に綴ってもらうサイトを作りました。

まだ人数は少ないですが、今後JACPの横のつながりを活用して広げていく予定です。



# JACP

一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会  
〒153-0063 東京都目黒区目黒 1-6-23 TEL: 03-6303-9181 FAX: 03-5759-1724  
<http://www.ja-cp.org>